

# 平成23年度 常緑果樹関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成23年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成24年6月22日(金)にホテルラングウッドにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者27名、委託関係者20名ほか、計54名の参集を得て、除草剤1薬剤(8点)、生

育調節剤6薬剤(47点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

## 平成23年度 常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験試験供試薬剤および判定一覧

### A. 除草剤

注)アグラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. SAR-0107 液 剤「サハラ」 塩化Na [住商アグライン社] 塩:1%	かんきつ	適用性 新規	神奈川県 根府川 山口 柑桔振と 香川 府中 福岡 果樹苗木 佐賀 果樹試 鹿児島 (6)	ねらい 効果、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生(広葉) 全般 多年生(科) 全般 多年生(広葉) 全般 その他 設計 茎葉処理 雑草生育期(草丈30cm以下) 薬量 20mL/m <sup>2</sup> <希釈せずそのまま散布> <水量> /10a 40mL/m <sup>2</sup> <希釈せずそのまま散布> 対) アグライン 雑草生育期(草丈30cm以下) 500mL <100L>		実・継	実 [一年生雑草] ・生育期(草丈30cm以下) ・20~40mL/m <sup>2</sup> (希釈せずそのまま散布) ・茎葉処理 継 ・年次変動の確認 ・多年生雑草に対する効果の確認
	かんきつ	倍量薬 新規	福岡 果樹苗木 鹿児島 (2)	ねらい 倍量薬害 対象 雑草 一年生(科) - 一年生(広葉) - 多年生(科) - 多年生(広葉) - その他 設計 茎葉処理 かんきつ生育期 薬量 40mL/m <sup>2</sup> <希釈せずそのまま散布> <水量> /10a 80mL/m <sup>2</sup> <希釈せずそのまま散布>			

### B. 生育調節剤

注)アグラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AKD-8147 水溶 剤「アキダ」 M:22% [アグライン社]	天草	適用性 継続	福岡 佐賀 果樹試 (2)	ねらい 摘果効果(全摘果) 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後) <水量> /10a 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。	実・継	実 [カンキ(温州ミカンを除く); 摘 果] ・生理落果盛期 (満開10~20日後) ・1000倍 十分量 ・立木全面散布あるいは枝別散 布 ・効果の確認された品種 天草、伊予柑、清見、せとか、 はるみ 継) 品質への影響、年次変動の 確認
	伊予柑	適用性 継続	山口 柑桔振と 愛媛 果樹研 (2)	ねらい 摘果効果(全摘果) 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後) <水量> /10a 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		
	清見	適用性 継続	香川 府中 佐賀 果樹試 (2)	ねらい 摘果効果(全摘果) 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後) <水量> /10a 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		
	せとか	適用性 継続	広島 果樹 福岡 長崎 (3)	ねらい 摘果効果(全摘果) 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後) <水量> /10a 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		
	はるみ	適用性 継続	神奈川県 根府川 愛知 山口 柑桔振と 香川 府中 福岡 (5)	ねらい 摘果効果(全摘果) 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後) <水量> /10a 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		

## B. 生育調節剤

注7が-は新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AKD-8147 水溶 つづき	甘夏	適用性 新規	香川 府中 福岡 (2)	ねらい 摘果効果(間引き摘果) 設計 薬量 <水量> /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果盛期(満開20~50日後) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。	継	[甘夏;摘果] 継 ・効果、薬害の確認
	伊予柑	適用性 新規	香川 府中 愛媛 果樹研 (2)	ねらい 摘果効果(間引き摘果) 設計 薬量 <水量> /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果盛期(満開20~50日後) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。	継	[伊予柑;摘果] 継 ・効果、薬害の確認
	清見	適用性 新規	福岡 佐賀 果樹試 (2)	ねらい 摘果効果(間引き摘果) 設計 薬量 <水量> /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果盛期(満開20~50日後) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。	継	[清見;摘果] 継 ・効果、薬害の確認
	湘南ゴ -ルド	適用性 新規	神奈川県 根府川 (場内、現地) (2)	ねらい 摘果効果(間引き摘果) 設計 薬量 <水量> /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果盛期(満開20~50日後) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。	継	[湘南ゴ-ルド;摘果] 継 ・効果、薬害の確認
	せとか	適用性 新規	山口 相模振々 福岡 (2)	ねらい 摘果効果(間引き摘果) 設計 薬量 <水量> /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 生理落果盛期(満開20~50日後) 1000倍<十分量> 1500倍<十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。	継	[せとか;摘果] 継 ・効果、薬害の確認
	河内晩 柑	適用性 継続	愛媛 みかん研 熊本 天草 (2)	ねらい 後期落果防止(1回処理への拡大) 設計 薬量 <水量> /10a 散布 果実着色期~収穫予定14日前 1000倍(1回)<十分量> 1000倍(2回)<十分量> 対) マカE 散布 果実着色期~収穫予定20日前 3000倍(1回)<十分量>	・2回目の散布は1回 目の10~14日後に 行う。 ・収穫予定期まで経 時的に落果率を調 査する。 ・収穫期に果実品質 を調査する。	実・継	[河内晩柑;後期落果防止] ・果実着色期~収穫予定14日前 ・1000倍 1~2回 十分量 ・立木全面散布あるいは枝別散布 継 ・2000倍処理での効果の確認 ・1回処理での効果の確認
2. BA 液 6-(N'-N')-7-ア リ:3%	レモン	適用性 新規 (自主)	広島 (1)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 新梢発生促進 緑枝部分への全面散布 萌芽直前~萌芽後 150倍<十分量>		継	[レモン;新梢発生促進] 継 ・効果、薬害の確認
3. CS-22H 水和 炭酸カルシウム:91.0%	温州ミ カ	適用性 新規	和歌山 果試 愛媛 果樹研 佐賀 果樹試 長崎 果樹研 熊本 果樹研 (5)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 浮皮軽減効果 枝別又は樹別散布 着色初期 100倍 1回<十分量(500L/10a)> 着色初期~5分着色期 100倍 2回<十分量 (500L/10a)> 対) カワノ 枝別又は樹別散布 収穫1ヶ月前 100倍 1回<十分量 (500L/10a)>		継	[温州ミカ;浮皮軽減] 継 ・効果、薬害の確認
4. J-455 乳 イソプロピレート:20.0%	温州ミ カ	作用性 新規	和歌山 果試 熊本 果樹研 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 発根促進および樹勢強化 立木全面散布 発芽期 15mL, 30mL<300L> 緑化期 15mL, 30mL<300L>		-	(作用性)
5. ジベレリン 塗布 ジベレリン:2.7%	ぶんた ん	適用性 継続 (自主)	高知 果樹試 (施設、露地) (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 果実肥大促進 結果枝塗布 満開50日後 5~10mg/果実 満開70日後 5~10mg/果実 満開90日後 5~10mg/果実	・露地(土佐文旦)お よび施設(水晶文 旦)での検討	実・継	[ぶんたん;果実肥大促進] ・満開50~90日後 ・5~10mg/果実 ・結果枝への塗布処理 継 ・他地域での効果、薬害の確認
6. ジベレリン+PDJ 水溶液 ジベレリン:3.1% アロピドジキモン:5%	伊予柑	適用性 継続	山口 相模振々 愛媛 みかん研 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 落果防止 全面散布 開花始め~満開期 PDJ50ppm+GA10ppm<十分量> 開花始め~満開期 PDJ25ppm+GA10ppm<十分量> 満開7~10日後 PDJ50ppm+GA10ppm<十分量> 満開7~10日後 PDJ25ppm+GA10ppm<十分量> 対) ジベレリン 全面散布 開花始め~満開10日後 GA25ppm<十分量>	調査項目:試験前に 着花数、また、一次 落果後、二次落果後 に着果率(着果数/ 着花数)を調査。 中晩柑では、500枚 以上着葉の枝があ る樹を目処とする。	継	[伊予柑;落果防止] 継 ・効果、薬害の確認
	清見	適用性 継続	和歌山 果試 香川 府中 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 落果防止 全面散布 開花始め~満開期 PDJ50ppm+GA10ppm<十分量> 開花始め~満開期 PDJ25ppm+GA10ppm<十分量> 満開7~10日後 PDJ50ppm+GA10ppm<十分量> 満開7~10日後 PDJ25ppm+GA10ppm<十分量> 対) ジベレリン 全面散布 開花始め~満開10日後 GA25ppm<十分量>	調査項目:試験前に 着花数、また、一次 落果後、二次落果後 に着果率(着果数/ 着花数)を調査。 中晩柑では、500枚 以上着葉の枝があ る樹を目処とする。	実	[温州ミカ;不知火、清見;落 果防止] ・開花始め~満開10日後 ・ジベレリン10ppm+PDJ25~50ppm 十分量 ・散布

B. 生育調節剤

注)アザイは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) 【委託者】	作物名	試験の 種・類 新・継 の別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
6.ジベレリン+PDI 水溶液 つづき	温州み かん	適用性 継続	山口 柑柿振七 香川 府中 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 浮き皮軽減(低濃度拡大) 果実散布 収穫予定3ヶ月前 ジベレリン2.5ppm+PDI1000倍 <十分量> ジベレリン2.5ppm+PDI2000倍 <十分量> ジベレリン3.3ppm+PDI1000倍 <十分量> 対) 無処理	収穫時及び貯蔵後の 果実の浮皮程度、 着色程度、果実品質 の調査。	実・継	[ワシツカミ];浮皮軽減 ・収穫予定3ヶ月前 ・ジベレリン2.5~5ppm +PDI25~50ppm 十分量 ・散布(果実表面に十分付着す るよう) 注) ・使用時に混用する ・着色が遅延する事があるため 貯蔵用のワシツカミで使用する ・処理により緑斑を生じること がある 継) ・ジベレリン低濃度での効果の確認 ・着色遅延の年次変動の確認。
	ボウカン	適用性 継続	静岡 伊豆 鹿兒島 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 水腐れ軽減 果実を中心に全面散布 着色始期 PDI50ppm+GA5ppm <十分量> PDI50ppm+GA3.3ppm <十分量> PDI25ppm+GA5ppm <十分量> PDI25ppm+GA3.3ppm <十分量>	水腐れの程度、着色 程度、果実品質の調 査を行う。 着色が遅延するこ とがあります。	実・継	[ボウカン];水腐れ軽減 ・着色始期 ・ジベレリン3.3~5ppm +PDI25~50ppm 十分量 ・散布(果実を中心に全面散布) 注) ・使用時に混用する ・着色が遅延する事があるため 貯蔵用のボウカンで使用する ・処理により緑斑を生じること がある 継) ・着色遅延の回復について
	不知火	適用性 継続	熊本 天草 鹿兒島 (2)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 水腐れ軽減 果実を中心に全面散布 着色始期 PDI50ppm+GA5ppm <十分量> PDI50ppm+GA3.3ppm <十分量> PDI25ppm+GA5ppm <十分量> PDI25ppm+GA3.3ppm <十分量>	水腐れの程度、着色 程度、果実品質の調 査を行う。 着色が遅延するこ とがあります。	継	[不知火];水腐れ軽減 継) ・効果、葉害の確認
	温州み かん	適用性 新規 (自主)	長崎 (H22. H21参考) (1)	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a クラッキング防止 枝別散布 着色8~9分前(収穫20~30日前) PDI50ppm+GA5ppm <十分量> PDI50ppm+GA3.3ppm <十分量> PDI25ppm+GA5ppm <十分量> PDI25ppm+GA3.3ppm <十分量> 対) 無処理		継	[ワシツカミ];クラッキング防止 継) ・効果、葉害の確認